

民主島根

2023年
2.12
第1421号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

「オール与党」県政に立ち向かう共産党議席 松江・出雲 県議選2議席必勝を

党中部地区 新春のつどいに100人超が参加



団結がんばろうで決意を固め合う(左から)吉井地区委員長、
大國県議、上代県委員長、地方議員ら(出雲市)

日本共産党中部地区委員会は1月29日、県議選(3月31日告示・4月9日投票)勝利をめざし、出雲市で「新春のつどい」を開きました。積雪の中、100人超が参加し、松江、出雲両選挙区の2議席必勝へ決意を固めました。

大國陽介県議が県政・県議会の状況を報告し、「丸山達也知事は、岸田政権が打ち出した原発復帰の新たな方針を容認するなど原発推進の国いいなり知事だ」と批判。丸山知事を支えているのが、共産党以外の県議だと述べ、「出雲で唯一、国いいなりの『オール与党』県政に立ち向かう議席として絶対に負けられない。党を大きくしながら全力で頑張り抜く」と訴えました。



「法令を順守せよ」と中国電力に求める尾村県議(松江市)

吉井安見地区委員長は「岸田政権の暴走を止めるためにも、県議選勝利のためにも強く大きな党をつくるのが一番の力になる」と強調し、党勢拡大に力を注ごうと呼びかけました。

中電 安全軽視の体質改善されず

島根原発周辺環境安全対策協議会が2日、松江市内で開かれ、丸山達也知事のほか、県議、松江市長、住民代表ら約50人が委員として出席しました。島根県原子力防災訓練(昨年11月7、12、15、19日実施)における住民避難訓練について県が報告し、中国電力が島根原発2号機の審査状況などを説明。

出雲、大田の両市議団、飯南町議の5氏が決意表明。ギターの弾き語りのほか、大平喜信元衆院議員の動画メッセージが紹介され、上代善雄県委員長の団結がんばろうで決意を固めました。

尾村・大國県議が主張

日本共産党の尾村利成県議は、中電がカルテルで課徴金納付命令を受けたことや、中電社員が子会社管理する新電力の顧客情報を不正に閲覧していた事実の発生を指摘。2号機の工事計画の審査会合(昨年12月)で原子力規制委員会が「必要な記載事項が圧倒的に不足している。安全性への配慮が足りない」と苦言を呈したこともふれ、「利潤第一、安

全軽視の企業体質が改善されていない」と批判。大國陽介県議は1月下旬の寒波で多くの地域で交通障害が発生したことふれ、「原発事故との複

酪農など畜産の火を消すな

島根県農林連(田食道弘会長)の第32回大会が1月28日、出雲市内で開かれ、雪が舞う中、県内各地から代議員が集まりました。

島根大学法文学部の関耕平教授、藤本晴久准教授が講演。両氏は、島根県農業のリアルな実態についての統計を示しながら報告し、日本農業の主力である「小さな農業」を守るための大切さや、農民連が進めるアグロエコロジーへ強い期待を示しました。

日本共産党演説会

3月5日(日)

- 10:00~ 松江テルサホール(松江市)
- 14:00~ 大社文化プレイスうらら館 だんだんホール(出雲市)

弁士

参院議員(弁護士) **山添 拓** (手話通訳あり)

【松江会場】 県議会議員 **尾村としなり**

【出雲会場】 県議会議員 **大國陽介**

私たちもお話します

酪農など畜産の火を消すな

大國陽介県議があいさつし、県内の酪農など畜産農家を訪問した様子を紹介。「農民連のみならずとも農業危機打開に取り組みたい」と訴えました。

酪農など畜産の火を消すな

大國陽介県議があいさつし、県内の酪農など畜産農家を訪問した様子を紹介。「農民連のみならずとも農業危機打開に取り組みたい」と訴えました。

鼓動

「サックス演奏」「大学で学び直し」「トライアスロン出場」「絵画へ挑戦」「ミュージカル出演」…。ある新聞が、50代を対象に「第二の人生でやりたいことは」とアンケートしたところ、意欲的な回答が多数寄せられ反響を呼んだ▼また、「第二の人生はいつから始めたいか」との設問には「子どもの独立」「自分の定年」が上位を占めた。とくに女性は「子どもが社会人となって巣立った今、余生を自分のやりたいことに挑戦したい」「子育てで半生は翻弄された。残りの半生を青春時代に夢見たことにとりくみたい」と回答▼「あなたのPLANNING Bは?」。アメリカではごく普通に、あなたは第二の人生で何をやる予定かと聞かれる。多くの人がその準備をしているという。もちろん、現役の仕事が面白く、やりがいを感じている人は「今の仕事を続けたい」と答える▼ある新聞紙上で、ノーベル賞受賞者の大隅良典・東工大名誉教授と細胞生物学者で歌人でもある永田和宏氏が対談。その中で、「人生は1回限り。自分のやりたいことを思い切つてやる、に尽きる」(大隅)、「ともすれば安全な道を人間は選びがちだが、自分にとって一番面白いと思えるものを選んでほしい。失敗したらその時ももう一度考えればよい」(永田)と▼先日、公務員を定年退職して、今は実家で農業をしている友人が「公務員時代は、押し付けられた仕事が多かったが、今は自分がやりたいことに挑戦しており、生きがいを感じている。人生で一番楽しい」と。筆者も、ようやく古希にしてライフワークとしての小説創作を開始し「第二の人生」のスタートを切った。(吉)